

下関市国際交流員 李 佳琦  
(中国山東省青島市派遣)

### 「マジックワード」

下関市国際交流員の李佳琦（リ カキ）です。本日は、あらゆる場面で使える万能な中国語を皆様にご紹介します。

はじめて中国語を学ぶ方が最初に覚える言葉は、99%の方はこの二文字だと思います。それは「你好（ニーハオ）」という、「こんにちは」にあたる言葉です。皆さまは、「你好（ニーハオ）」といえば「こんにちは」という意味があることはわかっていると思いますが、「你好（ニーハオ）」は、「こんにちは」以外にも他の様々な場面でも使うことができる「万能語」と言っても過言ではありません。

7月の下旬に青島を訪問した時の話ですが、レセプションで料理が運ばれる際、スタッフの方は毎回「你好（ニーハオ）」と在席者に一声かけてから、料理をテーブルに置きました。すると、前田市長から「スタッフの方は、どうして毎回「こんにちは」とあいさつするのか」との質問をいただきました。

皆様はどうお考えになりますでしょうか。

さて、正解の前に、まず私の経験から語りましょう。私が日本語の学習を始めた時、指導教師から「これさえ覚えとけば」という、一つの言葉を教えていただきました。申し訳ない気持ちで謝る場合はもちろん、感謝の気持ちを込めて言ったり、何か尋ねたいことがあれば使ったり、どのような場面でも、とりあえずその一言を言えばなんとかなる万能語、「マジックワード」。

それは、「すみません」でした。

日本語の「すみません」と同じ感覚で使える中国語の「你好（ニーハオ）」は、「こんにちは」のようなあいさつだけでなく、「私の話をよく聞いてください」「料理出すから気をつけてください」というような相手の注意をひく場合、「誰かいますか」「少しお伺いしたいのですが」というような質問する場合など、様々な場面で使われる、まさに万能な一言なのです。



しかしながら、万能語である「你好（ニーハオ）」は、中国人の間では公式的な場面で使うことが多い言葉という認識があります。それは、そもそも「你好（ニーハオ）」という言葉が、20世紀に入り、海外との交流が盛んになったことで、改まった場面で学者たちが目上の人や初対面の人と交流する際に、海外流のあいさつを取り入れようとした結果、「你好（ニーハオ）」という挨拶語が生まれたという説があることから伺えます。

一般的に仲の良い中国人同士で会話をするときには、「你好（ニーハオ）」を使わずに、「你吃了没？」（<sup>nǐ chī le ma</sup>「もう食べましたか」）「出门呀？」（<sup>chū mén ya</sup>「これからお出かけですか」）「身体挺好的吧？」（<sup>shēn tǐ tǐng hǎo de ba</sup>「お体は良いですか」）、つまり、出会った直前の出来事、これからの行方、最近の調子など、相手の身近なことを問うことによって、相手の近況に関心を示しながらあいさつするのが普通です。また、最近の若者は、「嗨（HI）」（<sup>hāi</sup>）「哈喽呀（HELLO）」（<sup>hā lóu ya</sup>）「哟（YO）」（<sup>yo</sup>）など英語系の短いセンテンスであいさつするのが普通になってきています。

ちなみに、私が中国の職場に出勤した際は、同僚から「佳琦来了？（<sup>jiā qí lái le</sup>佳琦ちゃん来ていますね）」（<sup>jīn tiān tǐng zǎo ya</sup>「今天挺早呀？（今日は早いですね）」）などと挨拶されることが多かったです。

とはいえ、中国語を学ぶ外国人である皆さま方は、細かいことを気にせずに、万能語である「你好（ニーハオ）」をフル活用して、挨拶だけでなく様々な会話の導入場面で使ってみてください！上記のようなあいさつ言葉はすべて「你好（ニーハオ）」で通じます。「你好（ニーハオ）」の一言で、中国の方とのコミュニケーションが広がること間違いなしです^^